

オペレーティング・モデル及び管理手続きに関する技術会合

暫定議題案

アラスカ漁業科学センター、NOAA、シアトル、 2009年7月13-17日

付託事項

資源評価及び一定漁獲量下での将来予測のため、SC14(2009年9月)で使用されるインプット・データ及びオペレーティング・モデルの最終構造の決定。これには次が含まれる。

- a) OM の構造
 - コンディショニング及び尤度の特定のためのインプット・データ
 - 過剰漁獲及び CPUE シナリオ
 - 不確実性の要因(グリッドの開発)
 - 適合度/診断
- b) 将来予測の方法
 - 検討すべき TAC のオプション及びパフォーマンス

提案される議題

1. オペレーティング・モデルへのインプット
[SAG-ESC 2008 の決定事項を修正する新たな情報のレビュー]
 - 1.1. 過去の漁獲量と体長組成
 - 1.2. CPUE シナリオ
 - 1.3. その他のデータのインプット
2. オペレーティング・モデルの再検討
 - 2.1 各国科学者により実施された休会期間中の分析のレビュー
[次に関する各国科学者からの文書 (1) コンディショニングにおける代替モデル構造のパフォーマンス, (2) 1990年代のタグデータに関する新たな尤度構造, (2) 自然死亡に関する仮定, (3) プラス・グループマキシマム・エイジに関する問題 など]
 - 2.2 会合中に実行/評価されるべき追加の推定試行に関する検討
[我々は、適合度/診断のためのコードとグラフィックを持つ必要がある]
 - 2.3. 新たなデータのインプット及び尤度の仮定を含むコンディショニング・モデルの構造/パラメーター化における変化の定義
[2. 1 及び 2. 2 に基づく]
 - 2.4 将来予測モデルの構造/パラメーター化の可能性のある変化
[ここではさらなる課題があるとは思われないが、我々はモデル仮定のレビュー及び文書化をするつもりである。]
 - 2.5 不確実性の要因の特定及び 2009 年において一定漁獲量下での将来予測に使用される重量を含む新たなレファレンス・セット候補の選択
 - 2.6 感度試験の選考
[注：当初のリストは SAG 2008 報告書の 22 ページで作成]

3. 一定漁獲量下の将来予測

[SAG 報告書15-16 ページ参照]

3.1 TAC に関するオプション及び配分

[CCSBT は、ゼロキャッチ・シナリオに加え、ESC が勧告した5つのオプションを受け入れた。SFMWG 報告書のパラグラフ21のほか、パラグラフ22のTAC配分に関するいくつかのコメントを参照]

3.2 シミュレーションの計画対象期間

3.3 性能統計、表及びグラフ

[漁獲量の変化に関するアウトプットのリニアリティを調査する必要がある。SFMWG 報告書のパラグラフ11と20にそれぞれ記載されている性能統計及びグラフも必要。かかる統計は初期産卵親魚量の20%とした委員会の暫定的な再建目標に関するリファレンス・ポイントを達成するのに要求されるタイムフレームを示す必要があるだろう]

4. 将来の MP 作業

[次回SCでは結果は要されないが、CCSBTは2010年?に新たなMPが最終化されると見込んでいる。予備的な議論を持つことは有意義である]

4.1 MPデータのインプット

4.2 MP評価のための頑健性試験の当初議論

4.3 その他

5. コーディングに関する課題及び作業計画

5.1 一定漁獲量下での将来予測のためのOM/グリッドのコード及び関連するグラフィックスファイルのアップデート.

5.2 シミュレーション・コード及びデータ/パラメーターのセットの各国科学者への配布

5.3 科学者によるシナリオ・モデリングの実施

6. 閉会

6.1 報告書の採択

6.2 閉会